

2020年度（第16回）精密工学会賞受賞業績の紹介

厨川 常 元

厨川常元氏は長きにわたり、機械加工を礎としつつ、「機能創成」という新しい視点からピコ精度・ナノ精度の機能性加工に取り組み、ものづくりに新たな研究分野を開拓し、それを実現するための加工装置を産学官連携の下で開発・実用化してこられました。関連する研究は加工特性と機能特性の両面を考慮してアプローチしていることが大きな特徴であり、かつM⁴プロセス（Micro/Meso Mechanical Manufacturing）と呼ばれる分野の体系化に貢献されてこられました。

近年は、精密加工への適用が難しいと言われてきたパウダージェット加工を歯科治療などの分野で実用化する研究に注力して、医工学の連携として異分野融合研究も先導し、その功績は極めて大きいものであります。

また、厨川氏は、精密工学会の活動に対して、ナノ精度機械加工専門委員会の委員長をはじめ、東北支部長、理事、副会長として、長年にわたり多大なる貢献をしています。同様に、日本学術会議会員、精密工学会フェロー、日本機械学会フェロー、砥粒加工学会会長、The International Society for NanoManufacturing フェロー、国際砥粒加工委員会（ICAT）委員長として、これらの学協会団体の活動と発展に対しても大きく寄与してこられました。

以上のとおり、厨川常元氏は精密工学、特にものづくりの分野の加工技術の研究・開発に多大な貢献をされてこられました。ここにその功績を称え、精密工学会賞を贈賞いたします。

略 歴

1984年 東北大学大学院工学研究科（精密工学専攻）博士課程後期3年の課程退学
（期間満了）（1987年 同修了）

東北大学助手工学部に採用

1990年 東北大学講師工学部に昇任

1992年 東北大学助教授工学部に昇任

2003年 東北大学教授大学院工学研究科に昇任

2014年 東北大学教授大学院医工学研究科に異動（工学研究科兼任）

2015年 東北大学未来科学技術共同研究センター（NICHe）教授（兼任）

2017年 東北大学大学院医工学研究科研究科長・教授

2020年 東北大学大学院医工学研究科教授

精密工学会フェロー（2011年度）

日本学術会議・会員、日本機械学会フェロー、高エネルギー加速器研究機構・客員教授

